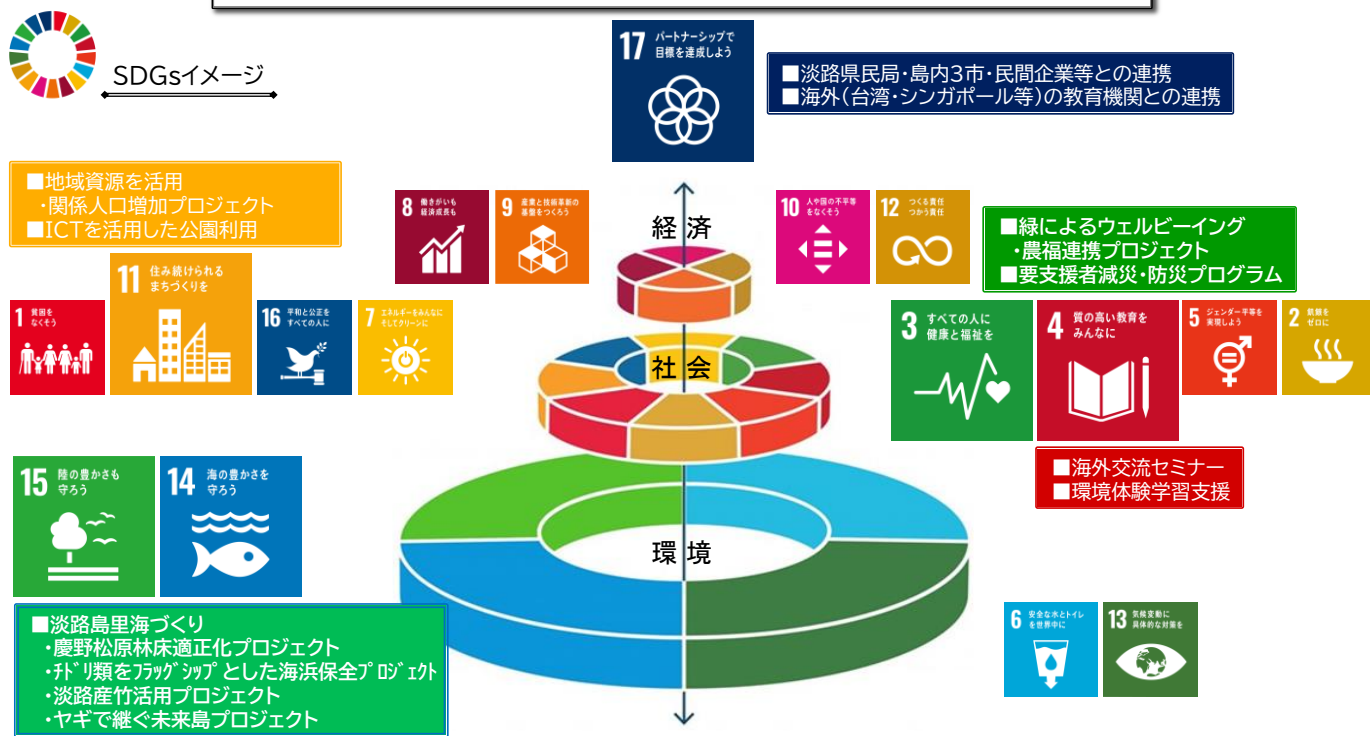




淡路景観園芸学校は、「景観園芸」という専門分野を活かし、学際的な分野をつなぎ持続可能な社会の構築に向けて教育や研究を行っています。さらに学校の存在価値をアピールするため、「世界と交流」「地域と協働」「緑・景観・地域経営」のプロとなる人材育成を目標に掲げた「新展開戦略」をまとめ、新たなカリキュラム実践等の新しいステージに進んでいます。この新展開戦略では、プロジェクトの大半が里山や里海保全につながるものであり、SDGs達成に向けた取り組みとなっています。

淡路景観園芸学校 新展開プロジェクト
 ~SDGs達成に向けた取り組み~



■ヤギで継ぐ未来島プロジェクト

淡路景観園芸学校のキャンパス内の緑地の除草作業に2頭の母娘ヤギが活躍しています。草刈機のように燃料使わず環境にやさしく、危険で大変な急斜面の除草もヤギは難なくこなしてくれます。ヤギとのふれあいは、いきものや自然との関わり方を学ぶきっかけになります。また、ヤギがのんびりと草を食む風景は人々に安らぎや癒しを与えてくれるなどメリットがたくさんあります。

2021年度は、ヤギ除草に必要な知識を学ぶ実践講座を開催し、さらに県内の公園や高校、浄化センターに出掛ける「ヤギ除草キャラバン」も展開しました。今年度は、ソーラー発電所内で除草に取り組みます。自然エネルギーと環境にやさしい除草のコラボに

より、環境問題に関心を持つきっかけづくりも進めていきます。



くうみ太陽光発電所(淡路市)で除草実験活動中の様子

■チドリ類をフラッグシップとした海浜保全プロジェクト



淡路市、洲本市の鳥でもあるチドリ類は淡路島内の砂浜で繁殖していますが、一年中、淡路島で見ることができるシロチドリは別名”浜千鳥”の名で親しまれるなど身近な存在でした。しかし調査の結果、島内では1970年代と比較し約3分の1に減少したことが分かりました。

そこで、地域住民主体の団体”淡路島ちどり隊”を学生が立上げ参加者を集め、シロチドリをフラッグシップ種とした海岸の保全活動を進めています。環境省の絶滅危惧Ⅱ類、兵庫県レッドデータブックのAランクに選定されたシロチドリの生育・繁殖に必要な環境を整えることで淡路島内の里海を含む海岸全体の資源保全に繋げようと活動するとともに、調査や環境教育なども行っています。



■ランドスケープの新潮流セミナー

コロナ禍であることを逆手に取り、オンラインを活用した海外交流セミナーを開催しました。令和3年度は台湾、アメリカ、シンガポール、オーストリア、フィンランド、ケニアなど海外のゲストを招聘し、4回開催し、全国各地から計450人が参加しました。

セミナーの成果として、海外のゲストと本校の教員が互いの知見を紹介、意見交換することで、世界の最新動向を把握するとともに、新たな研究・実務のフィールド開拓の可能性が広がったことが挙げられます。参加者からは、なかなか見る・聞くことのできない、世界の様々な情報等を知ることができよかったとのアンケート結果が多く、概ねご好評をいただきました。

■ TOPICS

大阪梅田「みどりのコンシェルジュ STATION 活用に関する産学連携協定」を締結

県立淡路景観園芸学校、県立大大学院緑環境景観マネジメント研究科、阪神園芸株式会社の三者は、大阪梅田ツインタワーズ・サウスをフィールドに、壁面緑化、屋上緑化など高層ビルにおける緑の活用に関する学術研究、実証実験、さらに学校教育の場として様々なプログラムの開発・運営を行う産学連携協定を令和4年3月30日に締結しました。

ビル3～9階のバルコニーは、計487個のプランターが設置され、六甲山系や淀川水系の在来種約100種類を植栽、見た目にもおしゃれな壁面緑化になっています。12階の屋上には、約800㎡の屋上庭園が整備され、オフィスワーカーなどの憩いの空間となっています。これらは当研究科の教員と阪神園芸株式会社との間で生育に関する予備実験や実証実験を経て完成した緑化空間となります。

また、ビルの1階には「みどりのコンシェルジュSTATION」が設置され、三者が連携し、緑あふれるまちづくりや都市緑化の意義、学校の取り組み・研究成果・SDGsの取り組みに関する情報を発信していく予定です。



兵庫県立淡路景観園芸学校
<https://www.awaji.ac.jp/>

最新の情報は
 ホームページで
 随時発信中！

